

新春対談

「羽曳野の創造」

あけましておめでとうございます

昨年は、新型コロナウイルス感染症との戦いの1年でした。

そのなかで私が最も重要視してきたことは、「大切な市民の命を絶対を守る」ということでした。羽曳野市としてできることは何かを議論し、市民の皆様の声を直接聞き、スピード感をもって取り組んでまいりました。ワクチン接種率は府内でもトップクラスとなり、新型コロナの陽性者数も激減致しました。これも市民の皆様をはじめワクチン接種に関わっていただいたすべての方々のご協力のおかげです。本当にありがとうございました。変異株の拡大が懸念されるため、引き続きの感染防止対策をよろしくお願い申し上げます。

さて、新年の幕開けとともに、本市においても新たなチャレンジを進めてまいりたいと考えています。そのひとつが(仮称)羽曳野観光局の設立であり、昨年12月1日に準備室を設置しました。国内外の観光需要はコロナ禍にあって厳しい状況ではありますが、民間活力を活かしながら、羽曳野の歴史資産や地元産品を全世界に向けてPRし、観光施策を大きく進めてまいりたいと存じます。

この度、花川雅昭羽曳野市議会議長と西元宗一大阪府議会議員と共に新しい羽曳野の創造について語り合いました。市議会・大阪府と連携、協力し市民の皆様と共に安全・安心なまちを築いてまいりたいと存じます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

山入端 創





花川 雅昭
Hanakawa Masaaki
羽曳野市議会議員



山入端 創
Yamanoha Hajime
羽曳野市長



西元 宗一
Nishimoto Soichi
大阪府議会議員

医療に強いまち羽曳野

■山入端：ワクチン接種につきましては医師会、しまだ病院、城山病院、藤本病院をはじめ医療機関の皆様には本当に大変な中、積極的にご協力いただくことができました。また四天王寺大学には体育館を、民間ではイズミヤ古市店も接種会場としてご提供いただきました。羽曳野は産学官の連携が密接に取れ、非常にバランスの良い街だと実感することができました。

■花川：市長には各機関とうまく調整いただきました。ワクチンを接種した皆様から「スムーズに接種できた。良かった。」という声を耳にしております。また、3回目接種が始まるので毎回初心に帰る気持ちでやっていきたいですね。

■西元：各機関との連携がうまくいき良かったです。市内には医療機関が豊富なのでとても心強いですね。来年度には、はびきの医療センターも総合病院として新たに開院します。

■山入端：羽曳野市はうれしいことに医療機関に恵まれている。このことを活かし「医療に強いまち羽曳野」として今後もアピールしていきたいですね。また災害に対する訓練なども行い、今後発生する大規模な災害にも備えていかなければなりませんね。

教育もデジタルへ

■山入端：コロナ禍での対応によって学校教育のデジタル化は一気に加速しました。子どもたち一人一台タブレット端末がいきわたり、ライブ配信での授業などが行われました。大きな混乱もなく教育長をはじめ現場の先生方には大変感謝しております。

■西元：デジタル化が進んだ事で、子どもたちや先生方が不安に感じる場面もあると思います。デジタ

ルツールが苦手な先生もなかにはいらっしゃるでしょう。日々進化するデジタル化に対応するよう今後もしっかりとサポートが必要になってきますね。

■花川：デジタル化に関してはいいことばかりではなく、いろいろな問題も出てくる。デジタルのあり方は今後さまざまな形に変化していくでしょうから、変化に対応し、しっかりと子どもを守る仕組みを作っていかなければなりませんね。

■山入端：デジタル化に関しては本当に大きく前に進めることができた一年だったと思います。

教育関係の施策としては食育に関しても進めていきたいですね。中学校給食に関してはしっかりと進めていきたいと思っています。





羽曳野観光局設立へ

■山入端：羽曳野市は日本遺産と世界遺産があるまち。本当にポテンシャルが高いまちです。これからもっと国内外にPRをしていかなければならない。その思いから、大阪観光局をモデルに（仮称）羽曳野観光局設立準備室を12月1日に立ち上げました。

■花川：コロナウイルスで暗いニュースばかりになっている中で、将来の発展に向けた新しい施策としてとても期待しております。今はネットの時代、SNSで一瞬にして何万人にも情報が伝わる時代。今までの枠にはまらずやっていきたいですね。

■西元：今までは広報紙などで行政情報を得るしかなかったがLINEやFacebookなどでどんどん情報が入ってくる。役所だけで動いては今までの枠にはまってしまうようなこともあると思うので、一度立ち止まり、民間の意見を参考に、といったことも有効だと思います。

■山入端：そういった新しい施策を行っていく中で、スマートフォンはとても重要なアイテムになってくると思います。高齢者の皆様にもスマホ教室などを開催し、生活に支障が出ないようにしっかりとサポートできる体制を作っていかなければならないと感じています。

そして幅広い年代の方々の意見を求めるために、タウンミーティングや意見交換の場を来年度は積極的に設けていきたいと思っております。

■山入端：2022年はまちづくりに関するさまざまな課題にチャレンジするための準備の一年になるのかなと感じています。私一人で思い描いても何もできません。皆様と意見交換しながら形付けていき大きく発展していければと思っております。本日はありがとうございました。



野中寺にて対談を行いました



野中寺は、聖徳太子が建立した46寺院のひとつ。太子の命により蘇我馬子(そがのうまこ)が造ったと伝えられ、南河内郡太子町の叡福寺(えいふくじ)を「上の太子」、八尾市の大聖將軍寺(たいせいしょうぐんじ)を「下の太子」と呼ぶのに対し、野中寺は「中の太子」と呼ばれています。

境内には三重の塔や金堂跡など飛鳥時代の伽藍の一部が残されていて、国の史跡に指定されています。

所在地：羽曳野市野々上5丁目

今回の対談会場としてご協力いただきありがとうございました。